

被災者の深刻な状況・思いに寄り添い、訴えに胸うたれ 進まぬ復興を見聞きしてのボランティア活動



この間のボランティア活動には、大阪府委員会7名はじめ、たつみコータロ、清水ただし衆院比例予定候補の方々が11〜13日の三日間。横浜市議団の方など11名が12〜14日の三日間（13日ははたの君枝衆院比例予定候補も参加）。大阪阪南地区委員会の方5名が12・13日の二日間。参加されました。

被災地の復旧の体制が遅く、5ヵ月半たつても深刻な状況です。避難所を転々として、仮設によつやく入れたという状況で、いまだに、被災者は取り残されていると実感されています。県発表の復興の状況は、住家被害は、全県で、全壊が8221棟、半壊が1万6584棟、一部損壊が5万6426棟です。（5月21日現在）

仮設住宅を訪問し、支援物資を届けながら、被災者の思い・要求を聞き取る活動を取り組みました。

被災住宅の公費解体は、全県の申請で、1万4233棟、解体完了が282棟と2%です。（5月19日現在）水道断水も、輪島市で288戸、珠洲市で1290戸ですが個人敷地内の未復旧は含まれていません。（5月21日現在）

現在でも避難所での生活をされている方もおりますし、自宅避難されている方もあります。きめ細かな今後の支援が必要です。

全国からの被災自治体へ職員の応援もあったが、現

在は自治体職員の方々が仕事に追われている状況です。共同支援センターとしても、被災者の思い・要求を、自治体・県・国に届けるとともに、被災者に寄り添った運動を進めてきたいと感じています。

聞き取りで 被災者の思い

この間の仮設住宅訪問で聞き取り活動で出されている被災者の思い・要求など

- 仮設住宅に対する意見
- * 仮設の防音対策が不十分で、隣の生活音が聞こえづらいバシーがない。
- * 前の家は広かったが、仮設は狭く、子どもが多く仮設での生活が大変。
- * 被災住宅からの家財道具を入れて置く物置が無い。
- もしくはあっても狭く、被災住宅から運んでこれない。
- * 同じ仮設に、顔見知りの方がおらず、閉じこもりぎみになる。
- * バス交通の便が悪く、買い物、病院などに行くとき帰ってこない。
- * 洗濯物を干すと、向かい側が隣の玄関口で、目隠しの幕が欲しい。

- * 小規模の仮設には、集会所が無く、周りの方とコミュニケーションが取れない。
- * 仮設の駐車場は一台分しか確保されておらず、「2台以上の場合、周りの民間駐車場を借りる」と行政から言われており大変。
- * お年寄りの方で、電気代が心配で、エアコンを使わず我慢している。
- * ようやく仮設に入れた。被災者は政府から見捨てられている感じがする。
- * 以前の家は息子たちと住んでいたが、今は別々で寂しい。5人家族や、7人家族で、世帯分離で、近くの仮設で、2世帯が入居できるとありがたい。
- * 仮設は2年間の期限と言われており、その後が、住宅再建もできないと思うし将来が不安。

